

令和3年度 第13回とやま建設フォトコンテスト

総評

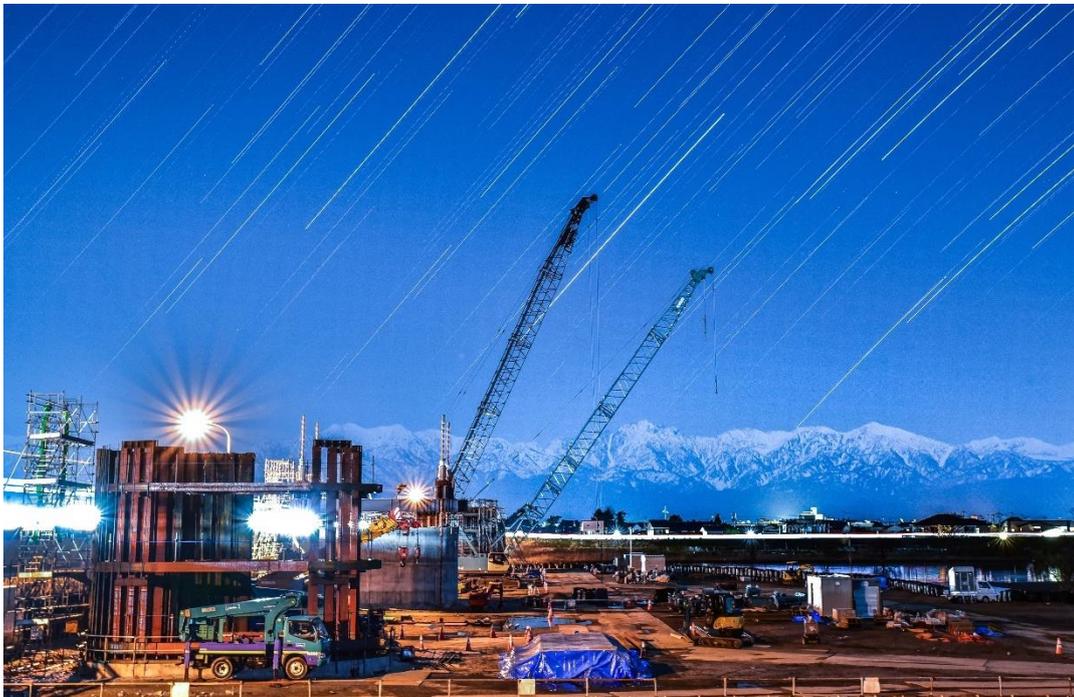
建設業界が行う仕事は、人々の安心・安全を支える街づくりを担っており、暮らしに欠かせない社会貢献度の高い仕事だと思っています。

当コンテストは今回で13回目を迎えました。

18歳から87歳までの幅広い層から52名、113点ものたくさんの応募を頂き、魅力溢れる作品の中から、5名の審査員により選ばせて頂きました。たくさんのご応募ありがとうございました。

審査委員長 平井 勝美（富山県写真連盟委員長）

特選 水野 敬雄【星降る夜】（撮影場所：富山市）



写真はただシャッターを切るわけではなく、目に映る物、心に感じる何かがあるから撮るんだと思います。私たちは夜の工事現場は何気なく通り過ぎるものですが、作者は「あっ、いいな」と思い、立山連峰を背景にシャッターはバルブで星の流れを取り入れ、自分の思い通りの作品になったのだと思います。迷うことなく審査員全員が特選に選びました。

働く人部門賞【さあ行くぞ】
水野 時諭（撮影場所:射水市）

通勤、通学者など皆さんの足を、万葉線が守っているんだ。

題名どおり、安全のための転落防止柵、安全チョッキを着た男達の背中から強い熱気が感じられます。



物づくり部門賞【安全を守る影の男たち】
谷崎 悦夫（撮影場所:高岡市）

夜明け近くの JR 雨晴駅、レールのジョイントの枕木の交換作業です。これも通勤、通学、地元、観光客の足を守る仕事です。

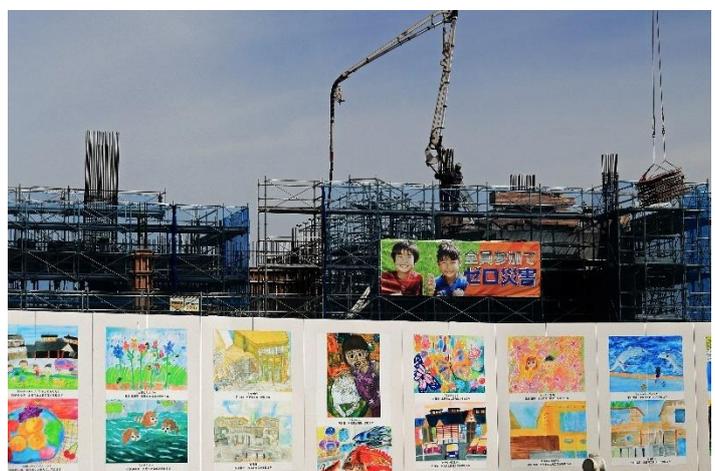
背景には立山連邦・義経岩・富山湾など全国的に有名な名所があります。

氷見線・城端線乗り換えなしの LRT 化が早く実現すればいいですね。

絆部門賞【氷見芸術文化施設】
西田 律子（撮影場所:氷見市）

この作品を見たとき何か微笑ましく感じました。

防音、防風シートだと思いましたが、子供たちの作品が飾られ、さすが芸術文化施設の新築工事現場です。



佳作【働くヒューマン】

松岡 茂晴（撮影場所:黒部市）

河川敷の根固めブロック、護岸ブロック…幾何学的な風景に見えます。横でかごマットに石を入れる所が写っています。

35cm～40cmのサイズの石を、一個一個入れて仕上げる作業は大変です。石の形も色々、丸、四角、厚さ…それを作業員が順番に入れながら仕上げます。冬が近づく寒い中、熟練した職人でないとできません。



佳作【まなざし】

矢合 晃基（撮影場所:富山市）

女子高校生の写真は、実習作業時とこれの2枚がありました。

自分の未来を見つめる希望に満ちた題名どおりのまなざしだと思います。働く女性の重要性がますます高まる中、建設業界関係の仕事に関わっていただければ嬉しいです。



佳作【水中での格闘】

中陳 渉（撮影場所:入善町）

吸出し防止マットの敷設後の被覆・根固めブロックの作業中の写真です。潜水作業のときには、海中にいる潜水士さんとクレーンオペレーターが通信機で連絡を取り合い、他のブロックとぶつからないように慎重に作業をします。

これもまた、熟練した職人でないとできません。



第13回とやま建設フォトコンテスト概要

募集時期 令和3年8月～令和4年1月

主催 (一社)富山県建設業協会

後援 富山県、富山県建設産業団体連合会、東日本建設業保証(株)富山支店

応募点数 113点

入賞作品 7作品

募集部門

- 働く人部門……建設業で働く人々が、いきいきと誇りを持って物づくりに携わる姿等をとらえた作品
- 物づくり部門…建造物や建設機械などを対象に、建設産業のスケールの大きさや重要性等をとらえた作品。
- 絆部門……除雪活動や防災対策など、建設業と地域のつながり、人々の安心安全を守るために担っている役割・活動をとらえた作品